

国土防災リモートセンシング研究会

会長：茨城大学 桑原 祐史 幹事：宮城大学 石内 鉄平

【 国土防災リモートセンシング研究会の取り組み 】

気候の変化にともない突発的豪雨の発生や例年にない巨大な台風が襲来し、国内外の多くの地域で水災害やそれに起因する土砂災害が頻発しています。多数の衛星群からの観測を可能とする衛星コンステレーション技術が登場し、広域を同時かつ瞬時に観測することが可能な衛星リモートセンシング技術は、益々、多くの災害監視や復旧の各場面で貢献できるものと思われます。災害発生からのタイムラインのステージにより、求められる(有効となる)観測手段と必要とされる情報には大きな違いがあります。このタイムラインの視点から地方自治体との議論を深め、当研究会で作成した「衛星データ利活用に関するガイドライン」や「災害時活用版ガイドライン」を更新する計画としています。これらのガイドラインはフリーソフトウェアを用いて演習することができる実践版のコンテンツとして整備を進めるとともに、CPDを取得することができる勉強会を企画する予定です。

【 研究会における活動内容の事例紹介 】

ぼうさいこくたい 2024 in 熊本

■ 出展日時：2024年10月20日(日) 12:30-14:00

■ セッション名称：So5「災害からの復旧・復興に向けた衛星画像の利用と課題」

■ セッションの主旨：常に宇宙から地表を観測している衛星画像が有する特徴と、発災後の復旧・復興過程における衛星画像を活用方法やメリットや課題についてさまざまな視点からセッション形式で事例を紹介することで、今後災害を見据えた復旧・復興を検討する際の参考にさせていただきたい。

参照元：ぼうさいこくたい2024 ホームページ<<https://bosai-kokutai.jp/2024/so5/>>

■ 登壇者：秋田寛己氏、伊東明彦氏、今井友桂子氏、齋藤 修氏、石内鉄平氏 Zoomによるオンライン講演状況

復興まちづくりワークショップ (庁内での試行訓練)

- 参加者：入庁3年目の若手職員40名程度
全庁的に幅広い部署から参加
- 目的：職員の復興まちづくりへの理解度向上
地域協働復興まちづくり訓練の試行
3D都市モデルのユースケース開発
- 目標：厚木市の災害特性を理解した上で、単なる現状復旧（生活再建目録）だけでなく、
市街地復興の目録から都市構造を考慮した持続可能なまちの姿を検討する。

試行訓練の様子

令和6年度能登半島豪雨の解析例

この度の豪雨における被災者の方々、関係者の皆様には、心から哀悼の意を申し上げます。
解析結果(GISデータ)は無償公開しておりますので、応急対応などの一助になれば幸いです。
<https://mizu.bosai.go.jp/wiki2/wiki.cgi>

広島県安佐南区八木地区災害現場のGoogle earthとの比較
地盤工学会地盤災害リスクマネジメントと気候変動適応の融合に関する研究委員会
広島土砂災害視察による)

情報収集衛星による観測結果

撮影日時 2024-01-02
撮影地域 石川県輪島市

1月2日、1月4日、1月5日の撮影画像(一部)が紹介

出典：<https://www.cas.go.jp/jp/jpcouou/240111csice.nmi>

研究会の開催状況

- 1月6日 (Zoom 遠隔会議)
新規入会メンバーの紹介
2023年度の活動方針の確認 等
- 4月18日 (Zoom 遠隔会議)
事業者や管理者に対するヒアリング調査
実施・結果の共有 等

研究会活動

- 研究会 HP の更新作業
新着情報の定期的な更新、英語版 等
- 災害時ガイドライン改定(評価・改善)
ひたちなか市へのヒアリング調査実施
河川氾濫やガレ場における利活用の検討
- 次世代衛星・UAV データの利活用に関する勉強会開催準備

学会・社会貢献活動

- 日本 RS 学会 春季学術講演会 参加
6月1日-2日 ポスター発表
- ぼうさいこくたい 2023 参加
10月23日 セッション発表
- 日本 RS 学会 秋季学術講演会 参加
11月21-22日 ポスター発表
特別セッションの企画・実施

連絡先：国土防災リモートセンシング研究会

会長 桑原祐史(茨城大学) yuji.kuwahara.rs@vc.ibaraki.ac.jp 幹事 石内鉄平(宮城大学) ishiuchit@myu.ac.jp